

第2部事例検討②

「メンタルヘルス不調を生じた社員の復職にあたり
対応に苦慮したケース」

日本精神科産業医協会 第13回会員研修会 2021.12.5

湘南労働衛生コンサルタント事務所 山本 愛

発表者：山本 愛 COI開示

本日の発表に関して開示すべきCOIはありません。

【公社 日本精神神経学会のCOI開示細則に基づく】

事例の概要

【A氏】

- 50代男性 妻と2人暮らし
- 医療機器の営業部門 管理職 勤続2年
- 大学卒業後、7回の転職を経て現職
- 「適応障害」の診断で休職中

【会社】

- 医療機器販売会社 本社（50名以上）、全国に営業所あり（50名未満）

【産業保健体制】

- 本社；産業医1名（非常勤）
- 精神科産業医1名（非常勤）＊演者
月1回、2時間/回訪問
- 保健師常駐なし

コメントーターの先生方への質問

【復職に関して】

Aは復職可能な健康状態まで改善しています。ただし問題行動に対する内省は乏しく、今後も同様の行動が繰り返される可能性があります。また、Aの復職が他の社員に及ぼす影響は大きく、社員が新たに健康問題を生じることが懸念されます。

- ①Aを復職させる場合、どのような法的リスクがあるのでしょうか。
- ②Aを休職継続させる場合、どのような法的リスクがあるのでしょうか。

コメントーターの先生方への質問

【医師の意見に関して】

本事例では、Aの健康状態および就労に関して、立場や役割の異なる3名の医師（主治医・産業医・会社の指定する医師）が意見を述べました。

③仮に3名の医師の意見が大きく異なった場合、会社は3名の意見をどのようにまとめ、対応するのが望ましいのでしょうか。